第一回

平成二十二年度

宇都宮短期大学附属中学校

入学試験問題

国語

注意

1 「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
2 試験時間は四〇分間です。
3 問題数は大きな問題が二問で、問題文は一ページから六ページまであります。
4 答えはすべて解答用紙に記入してください。
5 「始め」の合図があったら、すぐに受験番号と氏名を解答用紙に記入してください。
6 試験中に質問があれば、手をあげて先生に聞いてください。
7 「やめ」の合図があったら、すぐやめて、鉛筆をおいてください。

〔一〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①感動というものが脳や人生を変える。これは疑いのない事実ですが、では感動とは脳のシステムから見てどういったものなのでしょうか。

人間の脳は、自分が経験していることを「情動系のシステム」にa=テラし合わせます。「情動系のシステム」とは、まさに私たちの感情を司る部分です。そこで今までの自らの体験や、これまでb=キズいてきた価値観とてらし合わせるという作業をします。そこで脳が自分自身を変える大きなきっかけになる情報が来たと察知c=した時に、感動というのが起こるわけです。

感動のあまり涙を流すというd=ゲンショウがあります。これは、②今体験していることが、脳や人生を変えるきっかけになるものだと脳がサインを送っているようなものです。今自分が出会っている経験が、これから自分が生きる上で大きな意味を持っている。ア~イ~その意味が大きければウ~エ~大きいほど、オ~③~感動もまた大きくなります。

（　A　）感動というのは、脳が「記憶や感情のシステム」を活性化させて、今まさに経験していることの意味を逃さずにつかんでおこうとする働きなのです。脳が全力を尽くして、今経験していることを記録しておこうとしている。生きる④指針を痕跡として残そうとしている。そのプロセス(注1)に感動があると言えるのです。

涙を流すほどの感動は、時が経っても頭の中に残っているものです。たとえば映画の一場面に感動して涙を流す。後々にその映画の題名やストーリーは忘れたとしても、涙を流した場面はe=オボえている。それは脳がf=必死になって、その一場面を「記憶と感情のシステム」に残しているからです。その場面が、きっと人生や生き方を変えるヒントになるというサインを出しているわけです。

（　B　）同じ映画を観て、すべての人が感動をするわけではありません。涙を流すほどの感動をおぼえる人もいれば、つまらなくて眠ってしまう人もいる。また感動する場面も人によってさまざまかもしれません。しかし一つ言えることは、映画の中にたくさんの感動をおぼえられる人ほど、脳の「情動系システム」が活発に働いているということ。そしてそういう人ほど、人生を変えるヒントを記憶の中にたくさん蓄積することができているということです。

（　C　）子供の頃はみんな、何にでも感動するものです。すべての経験が初めてなわけですから、脳はできる限りそれらをg=記憶に留めようとする。その作用が次々と感動を生み出します。

私の息子が二歳になった夏、初めて花火を見せました。すると息子は大声で泣き出してしまった。それは私にとって［　Ⅰ　］なh=コウケイでした。もちろん⑤花火の大きな音に驚いたということもあるでしょう。でも息子が涙を流したのは驚いたからだけではない。やはりそこには、彼なりの感動があったのだと思います。

私たち大人は、今さら花火を見て涙を流すことはないでしょう。それは何度となく花火を見た経験があり、慣れてしまっているからです。それは悲しむべきことなのかもしれません。かといって、初めて花火を見た時に戻ることはできない。ならばせめて、初めて花火を見て涙を流している息子から、⑥感動のおすそ分けをもらう。それだけでも脳は［　Ⅱ　］化されるでしょう。

「感動することをやめた人は、生きていないのと同じことである」とアインシュタイン(注2)は言いました。やはり年齢とともに感動がなくなっていくという悲しい事実を⑦踏まえた上で、彼はそう表現したのでしょう。大人は子供のようには感動することができない。それは初めての経験というものが圧倒的に少なくなってくるからです。だからこそ、自分にとって初めての体験に消極的にチャレンジする必要があるのです。（　D　）、それが二度目、三度目の体験であったとしても、その二度目の中の初めてをさがす努力をしなくてはいけない。

毎年のように同じ花火大会に出かけたとしても、きっと初めて見る花火の姿がある。そう思いながら見るだけでも、

同じ花火もまた美しく思えるものです。

（注1）プロセス＝物事が進んできた順序や理由など。

（注2）アインシュタイン＝物理学者。ノーベル賞受賞。

（茂木健一郎「感動する脳」から）

問い1 ═══線**a**〜**h**の漢字の読み方をひらがなで、カタカナを漢字で書きなさい。

問い2 本文中に、正しい言葉と反対の意味の言葉が間違って使われている箇所があります。それを探して、例のように解答らんに書きぬき、さらに正しい言葉も答えなさい。

（例）深い――→浅い

問い3 ①感動とありますが、それはどういうときに起こるのですか。本文中から三十一字で書きぬきなさい。（、や。やその他の記号も字数に数える。）

問い4 ②今体験していることが、脳や人生を変えるきっかけになるものだと脳がサインを送っているとありますが、「脳」のこのような「サイン」の例としてあげられているものを、文中から五字以内で書きぬきなさい。

問い5 ③なります。の主語を本文中の〜〜部**ア**〜**オ**から選んで、記号で答えなさい。

ア その　**イ** 意味が　**ウ** 大きいほど　**エ** 感動も　・**オ** 大きく

問い6 （　　）**A**〜**D**に入れる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア ［**A** もちろん　**B** したがって　**C** そしてまた　**D** そもそも］

イ ［**A** そもそも　**B** そしてまた　**C** したがって　**D** もちろん］

ウ ［**A** したがって　**B** もちろん　**C** そもそも　**D** そしてまた］

エ ［**A** そしてまた　**B** そもそも　**C** もちろん　**D** したがって］

問い7 ④指針、⑦踏まえた上で、の本文中での意味は、それぞれどれですか。最も適当なものを下から選んで、記号で答えなさい。

④指針

ア 選りすぐられたすばらしい教訓
イ 物事を進める上で頼りとなる考え
ウ 自分に力を与えてくれるエネルギー
エ やっと手に入れることのできた情報

⑦踏まえた上で

ア 避けずに理解して
イ 片寄らずに良く考えて
ウ 判断のより所として
エ 本当かどうか見極めて

問い8 **I** にあてはまる語として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 理想的　**イ** 印象的　**ウ** 直感的　**エ** 実験的

問い9 ⑤花火の大きな音に驚いたとありますが、次の文の空らんに合うように、(1)主語を本文中の言葉を用いて答え、(2)本文と同じ意味になるように、述語のぬけている部分を補いなさい。ただし、それぞれ四字で答えることとする。

(1)（四字）は、花火の大きな音に驚 (2)（四字）。

問い10 ⑥感動のおすそ分けをもらう。とありますが、それはどうしてですか。その理由となる部分を、解答らんの「～から」に続くように、本文中から二十一字で書きぬきなさい。

問い11 Ⅱ にあてはまる言葉として最も適当なものを、本文中から二字で書きぬきなさい。

問い12 本文で筆者が言いたいことの中心は何ですか。最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 人生を変えるきっかけになる「感動」は、大切な経験を記録しようとする脳の働きである。大人は、二度目、三度目の体験であっても、その中の初めてをさがすことが大切である。

イ 大人が子どものように感動することができないのは、「情動系システム」の働きが鈍るからである。これを解決するためにも、子どもから感動のおすそ分けをもらうことが必要である。

ウ 脳が全力を尽くして、今経験していることを記録しておこうとするのは、「初めての経験」のときだけである。これは年齢とともになくなっていくので、大人は「初めての体験」にチャレンジすべきだ。

エ 人生を変えるヒントを記憶の中にたくさん蓄積することができているのは、「情動系システム」が活発に働いている子どもだけである。大人は、子供と同じ体験であっても「感動」することはできない。

〔二〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「志津子」と「久明」の息子「研吾」は、一週間前に脳腫瘍（注1）に倒れ入院した。その三日後、心臓発作で倒れた「志津子の父」が、「研吾」の手術の最中に亡くなったと電話が入った。「志津子の母」は、「研吾」の手術が終わるのを待つ「志津子」のもとにかけつけた。

「志津子、これ、研吾くんが目をさましたら、あげてちょうだい。」

志津子が手をだすとてのひらにあたたかなものが落ちてきた。目の高さにあげて、確かめてみる。それはハート形に角を丸めた白い小石だった。白にゴマのような黒点が散ったちいさな石である。

「今日ね、お昼ごはんをたべながら、おとうさんにきいてみたのよ。志津子があの石はなんなのか、不思議がっていたって。そうしたら、おとうさんがいうの。研吾が倒れたときから（　A　）この石をにぎって、気もちをこめていたって。」

【　Ⅰ　】それだけで志津子はもうたまらなかった。涙がとまらなくなる。

「最初の発作のときもいっていたの。よかった、これでちゃんと①おれの人生最後の仕事ができる。この石をにぎって、おとうさんはお祈りしていたみたいなの。自分が身代わりになりますから、研吾は助けてください。あの子はまだ十歳なんだから、連れていくなら七十すぎの老いぼれにしてください。」

②吠えるような声を漏らして、夫が泣いていた。母は泣き笑いの顔でいう。【　Ⅱ　】

「その石ね、心臓マッサージの途中で、わたしがおとうさんの手から取っちゃったの。まだあったかだったんだよ。それからずっとわたしがもっていた。これは志津子にわたすから、あなたが久明さんとあっためて、研吾が目をさましたらわたしてやって。」

志津子は指のあいだからちらりと小石を見ると、（　B　）にぎり締めた。この［　※　］は、父から母へ、それからわたしへと順番につながれてきたものなのだ。きっと研吾にも受けわたされるはずだ。b母は真っ赤な目をして笑っていた。

「うちのおとうさんは、③なにもいわない人だったけれど、いったことは必ず守る人だった。だいじょうぶだよ、志津子。研吾くんは、必ず助かる。むこうにいったおとうさんが、（　C　）話をしてくれるから。」

久明が小石をにぎった志津子の手を両手でくるむように取った。泣きながらうなずきかけてくる。志津子もなにもいえずに同じようにするだけだった。【　Ⅲ　】母は涙をふくと、静かにいった。悲しみも恐怖も怒りも感じさせない、④秋の日ざしのような声である。

「わたしには見えるよ。研吾くんの手術はうまくいく。そのあとの放射線だってうまくいく。あの青いユニフォームを着て、また元気にサッカーをする研吾くんが見えるんだ。別に予言とか、夢とかじゃなくて、実際にそうなるんだよ。安心して、（　D　）待つといい。あの子はまた元気に走りまわるようになる。それでね、あの子は優しいから、ジージの形見だといって、いつもその石をもって歩くようになるんだ。」

c母は自動ドアのてまえでふたりを振り返り、笑ってうなずくと待合室をでていった。それからの夜を、志津子と久明はふたりで小石をにぎりしめてすごした。

もう待つことは不安ではなかった。【　Ⅳ　】

研吾の手術は十四時間半かかって、深夜に終了した。先に手術室からでてきたのは研吾がのった台車だった。顔色は蒼白で意識はない。ちいさな頭は白い包帯で包まれている。何種類かの点滴が揺れていた。看護師の押す台車はとまることなく、集中治療室に運ばれていった。

すぐに中年の医師がでてきた。この手術はひとりだけでおこなう難易度の高い手術だと事前にきかされていた。医師の頬はくぼんでいる。目礼するとふたりにいった。

「手術は成功しました。肉眼で見える範囲の腫瘍はすべて摘出しています。あとは放射線と薬で完璧を期しましょう。ながいあいだお疲れさまでした。」

「ありがとうございます。」

ふたりは声をあわせて、頭をさげた。両手はにぎりあったままである。志津子のてのひらには、あの石がある。

志津子は窓の外を見つめた。⑤常緑のクスノキは秋が深まっても、変わらずにみずみずしい葉を茂らせている。そこに中年期を迎えた男女が手をつなぐ姿が、透きとおって二重写しになっていた。小石をにぎったてのひらに力をこめると、志津子は窓にむかっていった。

「あなたは明日があるから、帰って休んでください。わたしはおとうさんの病院にいって、おとうさんとおかあさんに、手術がうまくいったと報告してきます。どうしても電話では嫌なの、わたしの口から伝えたいんです。」

そうだ、きちんと報告して、父にお礼をいわなくてはいけない。おとうさん、研吾を守ってくれて、ありがとう。すまないけれど、おとうさんがいなくなったことを悲しむのは、もうすこしあとで勘弁してね。まだ、⑥研吾の闘いが終わっていないから。

小さな石のあたたかさが、てのひらから全身に広がるような気がして、志津子は秋の真夜中の寒さをまったく感じ

なかった。つないだ手のまんなかにハート形の石を忍ばせて、ふたりは夜の駐車場へと病院の廊下を歩いていった。

（石田衣良「ハート・ストーン」から）

（注）脳腫瘍＝脳に起きる病気の一種。

問い1 この文章を場面転換の上から大きく二つの段落に分けるとすると、後半の段落はどこからはじまりますか。後半の段落の最初の五字を書きぬきなさい。（、や。やその他の記号も字数に数える。）

問い2 次の文は、本文中の【 Ⅰ 】～【 Ⅳ 】のどこに入りますか。Ⅰ～Ⅳの記号で答えなさい。

小さなハート形の石には、ふたりの心を落ち着かせる不思議な力があったのである。

問い3 （　　）A～Dに入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア ［A しっかりと　B きちんと　C ゆっくりと　D ずっと　］
イ ［A きちんと　B ゆっくりと　C ずっと　D しっかりと］
ウ ［A ゆっくりと　B ずっと　C しっかりと　D きちんと］
エ ［A ずっと　B しっかりと　C きちんと　D ゆっくりと］

問い4 ①おれの人生最後の仕事とありますが、その内容の説明として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 「研吾」の命が助かるように、小石に祈ること
イ 願いが叶う不思議な石を、「研吾」に渡すこと
ウ 自分の命とひきかえに、「研吾」を助けること
エ 「研吾」の手術の成功を、天国から見守ること

問い5 ②吠えるような声、④秋の日ざしのような声の本文中での意味は、それぞれどれですか。下から最も適当なものを選んで、記号で答えなさい。

②吠えるような声
④秋の日ざしのような声

ア 感情を押し出すような大声
イ 感激にふるえる大声
ウ 緊張に耐えられない声
エ 興奮をおさえきれない声
ア 明るく活力に満ちた声
イ にごりのないおだやかな声
ウ 自信にあふれる強い声
エ 感情のこもらない弱々しい声

問い6 〜〜〜 a〜cのように、「志津子の母」はいつも笑っていますが、その理由として適当でないものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 孫の手術中に夫の死を告げに来た、非常識な自分の行動に対するきまり悪さをごまかしたいから
イ 大手術を行っている息子を待つ娘夫婦の苦しみを察し、少しでも励ましたいと思っているから
ウ 「研吾」を助けたいと願っていた夫の気持ちはきっと報われる、という希望を持っているから
エ 笑顔を保っていないと、最愛の夫を失ったばかりの悲しみに泣きくずれてしまいそうだから

問い7 [※] にあてはまる言葉を、これより後の本文中から五字で書きぬきなさい。

問い8 ③なにもいわない人だったけれど、いったことは必ず守る人だった。とありますが、そのような行動を意味する次の四字で構成された言葉の [(1)]・[(2)] に入る漢字の組み合わせとして適当なものを後から選んで、記号で答えなさい。

[(1)] 言 [(2)] 行

ア [(1) 不 (2) 必]　イ [(1) 有 (2) 必]

ウ [(1) 不 (2) 実]　エ [(1) 有 (2) 実]

問い9 ⑤常緑のクスノキは秋が深まっても、変わらずにみずみずしい葉を茂らせている。とありますが、この様子を説明した次の文の [ア]・[イ] にあてはまる言葉を、本文中からそれぞれ七字で書きぬきなさい。

ハート形の石は、「志津子」の家族に順番に [ア] ものであり、これからも [イ] はずである。

問い10 ⑥研吾の闘いとありますが、その内容を説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を、本文中から八字で書きぬきなさい。

病気を [------] に治すこと